

専門部会報告

第5期産業振興計画の令和7年度の取り組みの強化の
ポイントに対する意見について

1	農業部会	1
2	林業部会	2
3	水産部会	3
4	商工業部会	4
5	観光部会	5

農業部会報告(産業成長戦略／農業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

令和6年度の進捗状況及び令和7年度の強化のポイントについては、原案どおり了承された。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

【主な意見】

(1) 生産力の向上と持続可能な農業による産地の強化

- ① JAの営農支援員も減少している中では、経験と勘に頼る方法ではなく、SAWACHIを活用したデータ駆動型農業を普及していくことが大事。農地の面積が減少していく中で量を確保していくためには、データ駆動型農業をいかに広げていけるかが重要。
- ② 夏期の高温対策については、新品種の育成や新技術の開発など、今後も強化をお願いしたい。
- ③ 夏期の高温対策や暖冬の影響によるカメムシ被害への対策について、農家全体へ早く情報が届くようにしてほしい。
- ④ ハウスの整備費用が高騰しており、規模拡大等が難しくなっているため、県の支援拡充の検討をお願いしたい。

(2) 流通・販売の支援強化

今後、カット野菜などの業務需要が拡大に向かっていくことは間違いないので、こうした需要にいかに対応していくか、いかに収量を上げて、コストを下げているかということが一番大きな課題。

林業部会報告(産業成長戦略／林業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

令和6年度の進捗状況及び令和7年度の強化のポイントについては、原案どおり了承された。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

【主な意見】

(1) 再造林基金の取り組みについて

- ① 基金への拠出について、木を扱う人全員から少額でも集めることで、再造林に対する意識が高まることにつながるのではないかと思う。

(2) 建築物の木造化・木質化の推進について

- ① 施主が木造を選びたくても、コストの面で諦めて他の構造を選んでしまったり、設計者や施工者の技術力の問題があったりする。拡充する相談窓口では、そういった面を解決し、相談に応じていけるよう、業界全体で協力し合って進めていけたら良いと思う。
- ② 持続可能性が担保された認証木材の活用を望む企業が増えているとのことだが、山で木を植える者は、木を使っていただくことを前提としており、最終的には木材の利用というところに行き着く。こうした企業の動きを後押しする取り組みを推進していただきたい。

(3) 多様な担い手の育成・確保について

- ① 女性が魅力に感じるのは、やりがいや自分が林業にどう関わることができるのかということだと思う。チェーンソーを手にする現場での仕事が好きな女性もいる。性別で仕事を分けずに、誰もが活躍できる、やりがいのある職場が魅力的なのだと思う。
- ② 最近では移住の勢いが弱まっており、林業の露出が足りていないと感じる。県外から呼び込むことも大事だと思うが、県内の農業高校などで若い担い手にアピールすることにも力を入れていただきたい。
- ③ 山の現場でインターネット環境を整えば、子供を持つ就労者は昼休みに幼稚園に連絡することができるし、外国人就労者は翻訳ソフトで周りの人と会話ができる。山全体となると難しい話になるが、作業現場だけでも通信環境整備の支援があると良い。

水産業部会報告(産業成長戦略／水産業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

令和6年度の進捗状況及び令和7年度の強化のポイントについては、原案どおり了承された。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

【主な意見】

- (1) 分野を代表する目標として漁業生産量の目標を立てているが、水産業分野においては数量より質を重視していかなければならない。
- (2) 燃油費の高騰や担い手不足等により厳しい状況にあり、漁業者だけでなく漁業の操業を支える造船所等についても減少していると思う。将来に渡って本県漁業の展望が描けるような取り組みを今後も県にはお願いしたい。
- (3) 養殖は伸びる余地があるため、陸上養殖や人工種苗を含めて取り組みを進めてもらいたい。
- (4) 輸出の取り組みのうちフェアの開催は、現地ニーズの把握ができ、継続取引につなげていける良い取り組みである。また、まずはハードルが比較的低い東南アジアでの販路開拓を目指すとのことであるが、東南アジアもゆくゆくはハードルが高くなっていくため、加工業者は力をつけて、アメリカやヨーロッパ向けの水産品を目指す必要がある。
- (5) 県には、外国人実習生が何を求めているのか、実習生の声をくみ取ったうえで、実習生の満足度を高め定着してもらい取り組みを考えてもらいたい。また、実習生が最も重視しているのは賃金であるので、賃上げをした事業者を支援する制度などを考えてもらいたい。
- (6) 若者は就職する時にその会社が安定しているかどうか必ず確認するし、法人の方が安心する。漁業経営を継続させていくための1つの手段として、法人化は必要ではないか。また、大人が「この仕事は大変だけれども面白い」という姿勢を見せていくのが良いのではないか。

商工業部会報告(産業成長戦略／商工業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

商工業分野の令和7年度の取り組みの強化のポイント、重点施策の方向性については、事務局案どおり了承された。

なお、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見が出された。

【主な意見】

(1) 県内事業者のデジタル化の促進について

- ① デジタル化を中山間地域にも浸透させ、懐疑的な事業者にも取り組みを進めてもらうには、デジタル化に取り組んだ事業者の成功事例をしっかりと見せてあげることが重要。
- ② 長期的に県内のデジタル化を進めていくためには、県内IT企業を巻き込んでいくことが必要だが、技術的に全ての課題に対応できる訳ではない。県内IT企業の育成支援も重要な視点であるので、留意をお願いしたい。

(2) 地域商業の活性化について

- ① 高知市の中心商店街では、インターネット販売の影響で物販が厳しくなっている。消費者が商店街に求めるものが変化していることを踏まえ、AIカメラから取得した人流データを効果的に活用するなど、対応を検討していく必要がある。
- ② 郡部の商店街はシャッター街も多い。人口が減少する中で、食料品の購入などの生活に必要な商業機能を残していくため、コンビニのような場所に機能を集中させていくことも必要ではないか。

(3) 県内就職の促進(県内事業者の魅力向上)について

- ① 中小企業の多い県内への就職を促進するためには、学生に、給料や福利厚生のみではなく、仕事のやりがいや面白さに関心を持ってもらうことが重要。学生向けのPRや事業者の採用力向上への支援の際には、この点を考慮してもらいたい。

(4) 外国人材の活躍促進について

- ① 外国人労働者数の目標を掲げて取り組んでもらっていることはありがたい。人材確保のルート(国や地域)を開拓していくことも重要。
また、色々な所で外国人材の雇用を考えてみたいという声を聞くので、新たに設置する相談窓口の積極的なPRをお願いしたい。

(5) 働き方改革の推進について

- ① 特に小規模な企業においては、給与体系や社会保険制度などに関する知識が不足している部分があるため、学べる機会を充実させてもらいたい。

観光部会報告(産業成長戦略／観光分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

令和6年度の進捗状況及び令和7年度の強化のポイントについては、原案どおり了承された。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のとおり意見・要望等が出された。

【主な意見】

(1) 旅行需要の平準化について

- ① 平日に行きたくなる理由を考えれば、自ずと観光客が来るのではないかと。特典として、割引などではなく付加価値を付けることが大事。
- ② 閑散期の可視化ができれば「混雑を避けることができ、スムーズで動きやすい」といったアピールができる。

(2) インバウンド誘客について

- ① 四国4県がバラバラにセールスするのではなく、連携して、役割分担しながら取り組むことが効果的ではないか。
- ② インバウンドを増やすにはアウトバウンドも大事で、双方向の交流が必要。アウトバウンドへの取り組みの強化もセットで検討していく必要がある。高知県民は、パスポートの取得率が低いと思うので、海外に行くためのきっかけづくりも検討してみてはどうか。

(3) 二次交通について

- ① 高知県は、二次交通が不足をしてるので、なかなか長期滞在ができない。例えば、主な二次交通の手段であるレンタカー向けの施策を検討してはどうか。
- ② クルーズ船利用者は、MY遊バスを利用して高知城、竹林寺、牧野植物園へ行く。現在、MY遊バスの便数が減ってしまっているため、クルーズ船が来た際は、土日祝ダイヤでの運行を検討してはどうか。

(4) 県民体育館の再整備を見据えたスポーツの推進について

- ① 南高校の跡地や県民体育館の再整備等では、防災と観光をセットで考えてはどうか。平時は、観光目的で使用し、緊急時には防災・医療基地として活用できればいい。
- ② 12月、1月、2月は、宿泊ニーズが下がるので、スポーツの誘致にも頑張っていたきたい。